

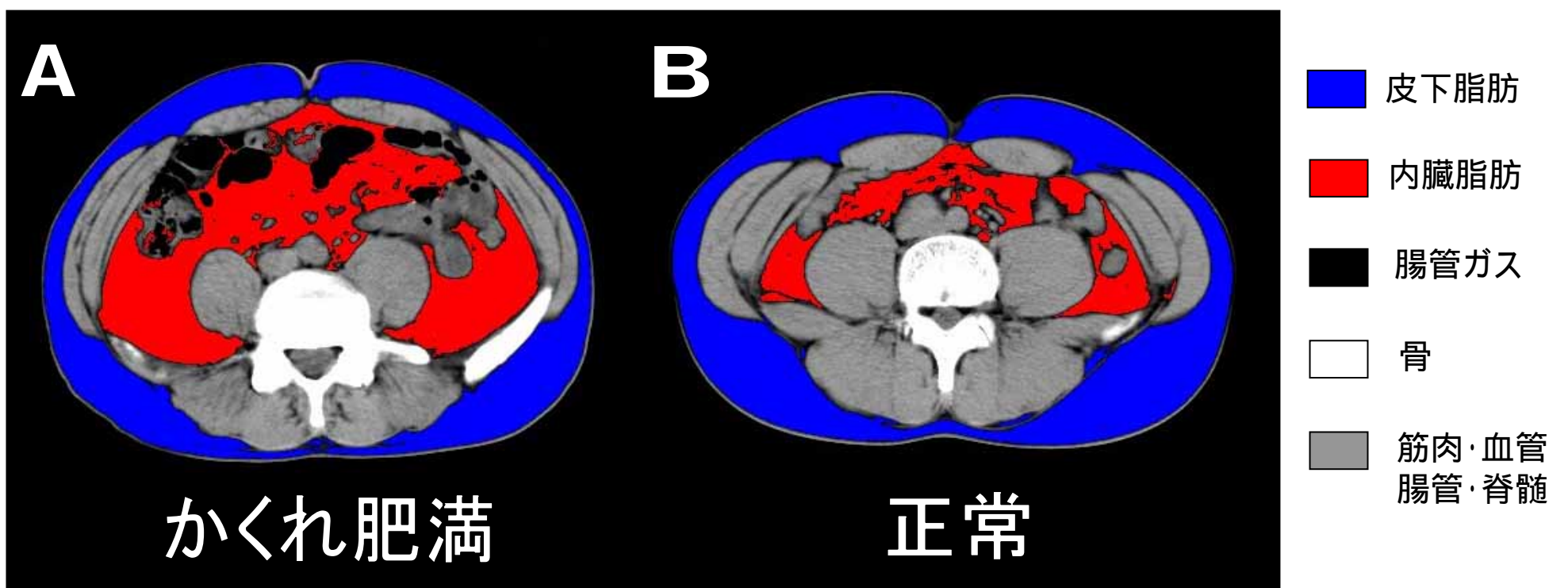
内臓脂肪CT検査

【はじめに】

内臓脂肪の過剰な蓄積(内臓脂肪型肥満)は、高血糖や高脂血症、高血圧などを招き動脈硬化をすすめ、心筋梗塞や脳卒中などを引き起こすリスクが高くなることがわかってきました。内臓脂肪の量は腹囲でおおよその推定が可能で、男性で85cm以上、女性で90cm以上では内臓脂肪量が多いとされています。しかし、腹囲の計測ではわからない「かくれ肥満」の方もおりX線CTスキャンを用いて腹部の断面像を撮影しないと正確には内臓脂肪の蓄積を判断できません。内臓脂肪CT検査は、苦痛も無く、X線被ばくも少ない安全な検査です。ご自身の内臓脂肪量を知り、ぜひ健康管理にお役立てください。

【検査目的】

X線CT装置にて臍(へそ)の高さの断面を撮影し、正確に皮下脂肪と内臓脂肪を分離計測し生活習慣病と関連のある内臓脂肪量を把握します。



写真のAとBは同じ腹囲78cmの方の腹部の断面像です。どちらの方も外見は、スマートなのですが腹部の断面写真を撮ってみると、Bの方(正常)に比べ明らかにAの方の内臓脂肪(赤色)が多いことがわかります。

【食事制限】

検査のための食事制限はありませんが、おなかにバリウムが残っているとききれいな画像が撮影できないのでバリウム検査前か、検査終了一週間以降に行います。

【検査方法】



着衣のまま仰向けで撮影台に横になっていただきます。

臍の位置を確認し、撮影位置を決めます。

「息を吸って止めてください」の合図に合わせて、息止め(約1秒)で撮影し検査終了となります。